

証券コード：4651

# 2025年3月期 第3四半期 決算説明資料

株式会社サニックス

2025年2月14日

1. 第3四半期(4-12月) 決算概況 P. 2
2. セグメント別概況 P. 10
  - ①住環境領域 (HS・ES・SE) P. 10
  - ②エネルギー領域 (PV・新電力) P. 15
  - ③資源循環領域 (環境資源) P. 20
3. トピックス P. 27
4. 通期連結業績見通し P. 36
5. 参考資料 P. 42

## 第3四半期(4-12月) 決算概況

資源循環領域における発電事業の売電単価が大きく低下し、前年同期で減収・減益。利益ベースでは計画を上回って進捗

(百万円)	2024/3期 3Q 実績	2025/3期 3Q 実績	増減額	増減率	2025/3期 通期計画	進捗率
売上高	34,275	<b>32,782</b>	△ 1,492	△ 4.4%	46,246	70.9%
売上総利益	12,999	<b>12,096</b>	△ 902	△ 6.9%	16,001	75.6%
営業利益	2,419	<b>1,438</b>	△ 980	△ 40.5%	1,715	83.9%
経常利益	2,242	<b>1,201</b>	△ 1,040	△ 46.4%	1,440	83.4%
最終利益	1,806	<b>831</b>	△ 975	△ 54.0%	1,093	76.0%

# 第3四半期(4-12月) セグメント別概況

## 住環境領域

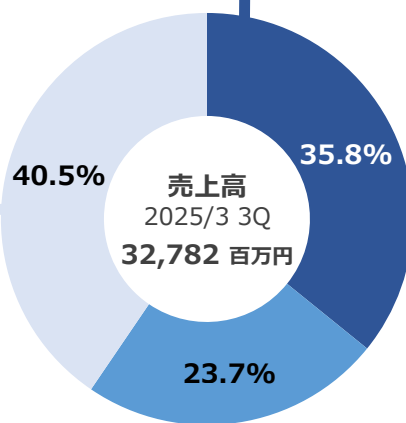
戸建・集合住宅等のトータルメンテナンスに関する事業

- HS(ホーム・サニテーション)事業
- ES(エスタブリッシュメント・サニテーション)事業
- SE(ソーラー・エンジニアリング)事業

## 資源循環領域

廃プラスチックの再資源化や廃液の浄化・燃料製造等に関する事業

- プラスチック事業
- 廃液処理事業
- 発電事業
- 埋立事業

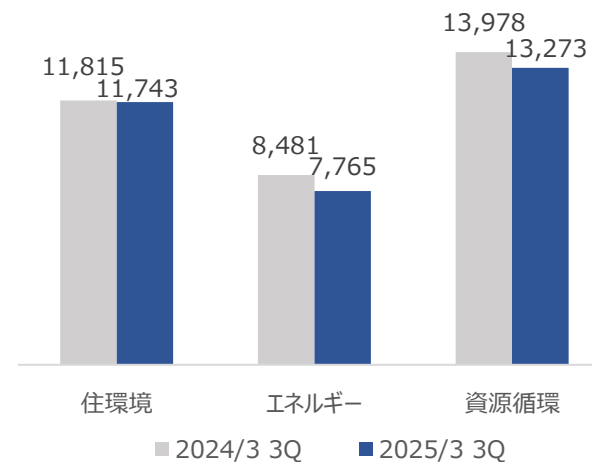


## エネルギー領域

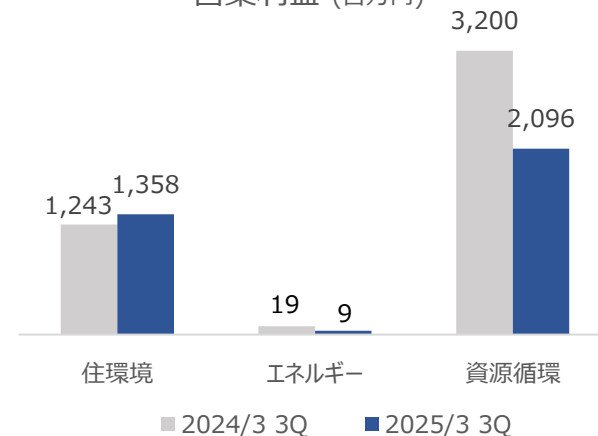
企業・法人向け太陽光発電システム等の販売、施工、メンテナンス等に関する事業

- PV(法人向け太陽光発電)事業
- 新電力事業

売上高 (百万円)



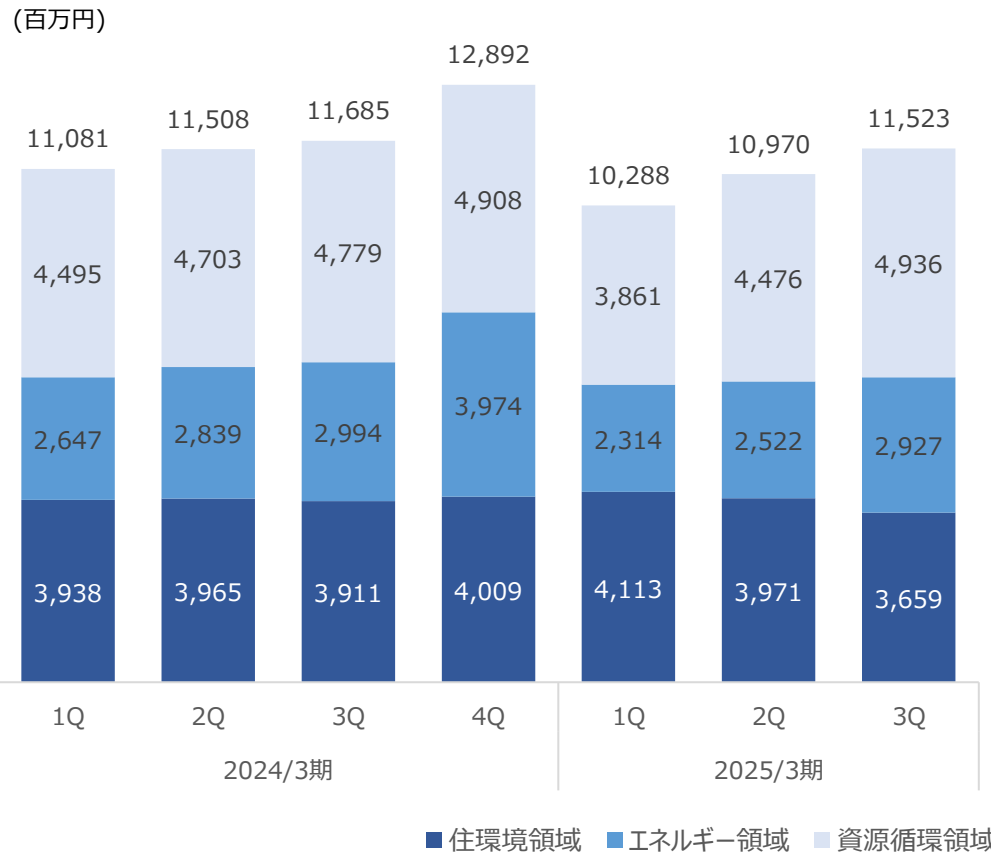
営業利益 (百万円)



## 第3四半期(4-12月) セグメント別概況

		対前年同期(3Q累計)	
住環境領域	売上高 営業利益	11,743 百万円 1,358 百万円	(△0.6%) (+9.2%)
			✓営業力と顧客基盤を生かした既存事業の拡大等により、主力のHS事業は売上・利益ともに堅調に推移
エネルギー領域	売上高 営業利益	7,765 百万円 9 百万円	(△8.4%) (△53.1%)
			✓PV事業は、案件ごとの採算管理の徹底及び材料コストの低減により粗利率が改善し、3Q(10-12月)では黒字化 ✓新電力事業は、継続して利益確保
資源循環領域	売上高 営業利益	13,273 百万円 2,096 百万円	(△5.0%) (△34.5%)
			✓発電事業の売電契約単価の低下及び、ボイラー更新にともなう稼働停止(1Q)の影響あり ✓プラスチック・廃液・埋立事業は堅調に推移
本社費用	営業利益	△2,024 百万円	(-%) +19百万円
			✓HD体制移行に向けた社内整備等の費用が増加したものの、その他費用の削減を実施し、本社費用を圧縮

## 第3四半期(4-12月) 売上高 (四半期推移)



対前年同期(3Q累計)

△4.4%減

住環境領域 △0.6%減

エネルギー領域 △8.4%減

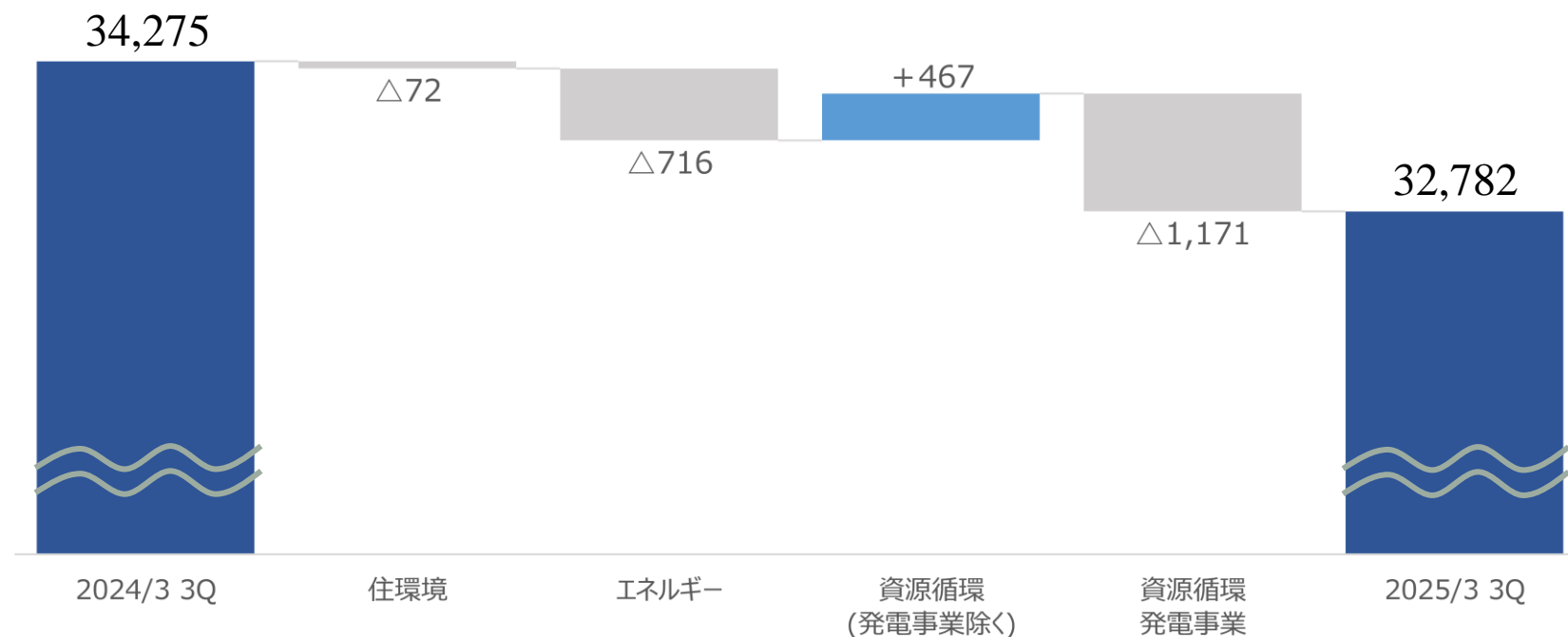
資源循環領域 △5.0%減

## 第3四半期(4-12月) 売上高 対前年同期増減分析

## 売上高

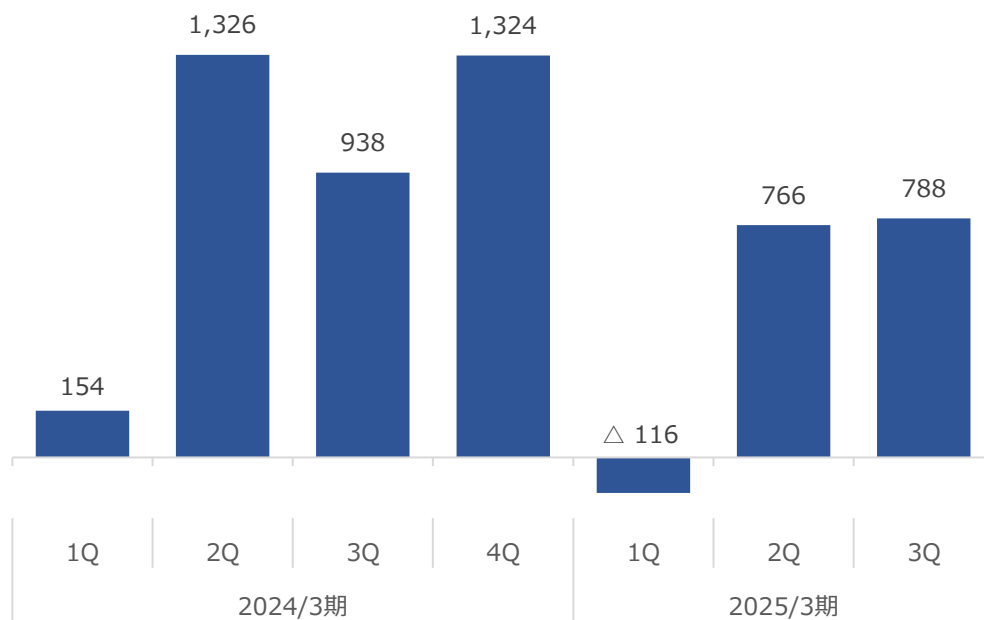
対前年同期  $\Delta$  1,492 百万円

(百万円)



## 第3四半期(4-12月) 営業利益 (四半期推移)

(百万円)



対前年同期(3Q累計)

△ 40.5%減

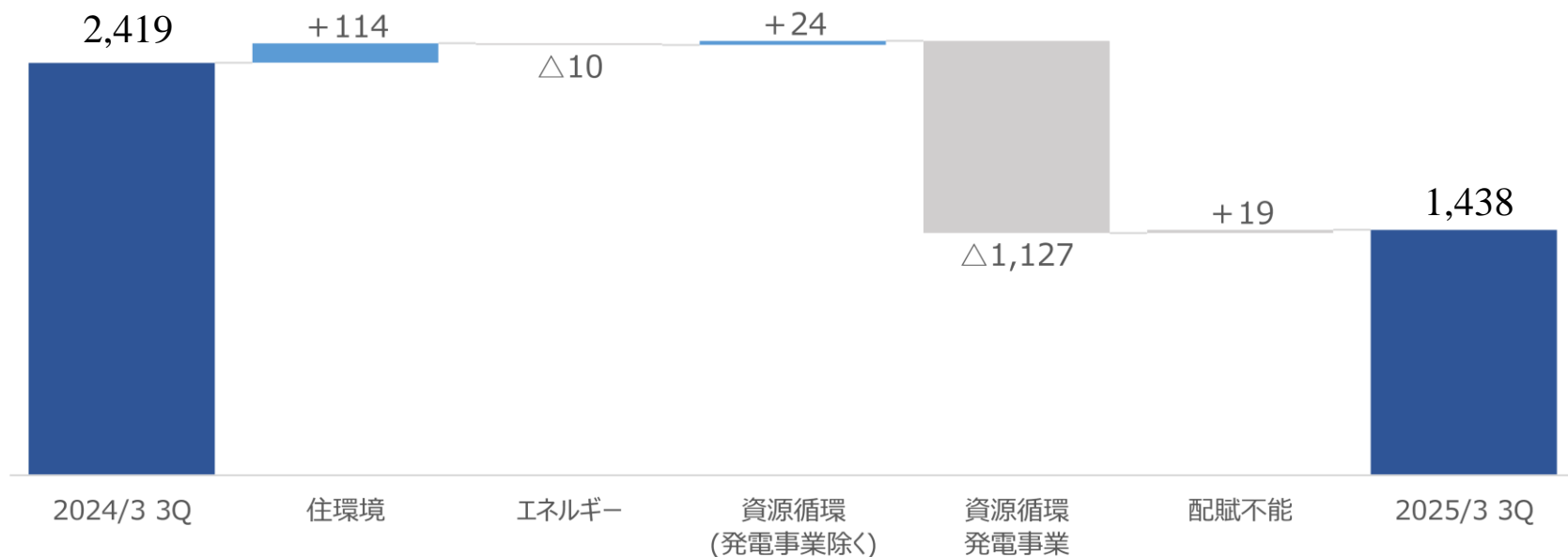


## 第3四半期(4-12月) 営業利益 対前年同期増減分析

## 営業利益

対前年同期  $\Delta$  980 百万円

(百万円)



1. 第3四半期(4-12月) 決算概況 P. 2
2. セグメント別概況 P. 10
  - ① 住環境領域 (HS・ES・SE) P. 10
  - ② エネルギー領域 (PV・新電力) P. 15
  - ③ 資源循環領域 (環境資源) P. 20
3. トピックス P. 27
4. 通期連結業績見通し P. 36
5. 参考資料 P. 42



## 住環境領域

快適な住環境を次世代へつなぐ

- 戸建住宅向けメンテナンス
- 集合住宅向けメンテナンス
- 住宅用太陽光発電設置
- 衛生管理

サンニクスでは、“予防医学（＝未然に防ぐという思想）”の見地から、戸建・集合住宅等のトータルメンテナンスを推進。さらには、太陽光発電やリフォーム、都市空間の衛生管理まで、世代を超えて受け継がれる、快適で衛生的な暮らしを実現します。

### HS(ホーム・サニテーション)事業

シロアリの習性を熟知したスタッフが、予防から駆除まで、適切に対処。豊富な経験と実績で培われた専門技術とノウハウ、万全のアフターサービスにより、大切なマイホームをシロアリの被害から守ります。



白蟻防除施工



床下・天井裏換気システム

### ES(エスタブリッシュメント・サニテーション)事業

給排水設備メンテナンスの効率的一元管理を実践。主力商品である防錆装置などにより、配管内のサビの発生・進行抑制による配管の長寿命化や、スケール・油汚れの除去・付着抑制によるトラブルの解決を図ります。



ビデオスコープによる水道管検査



害虫防除施工

### SE(ソーラー・エンジニアリング)事業

戸建て住宅向け太陽光発電の普及を目指して、環境にも家計にも優しい生活を実現します。また、自家消費型太陽光発電のニーズが高まるなか、蓄電池の導入による電気の柔軟な使い方をご提案しています。

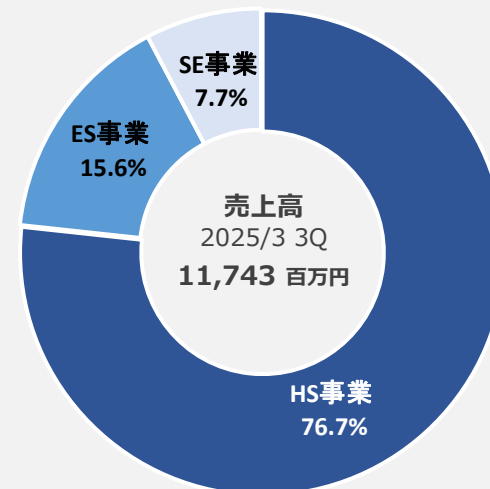


住宅用太陽光発電システム



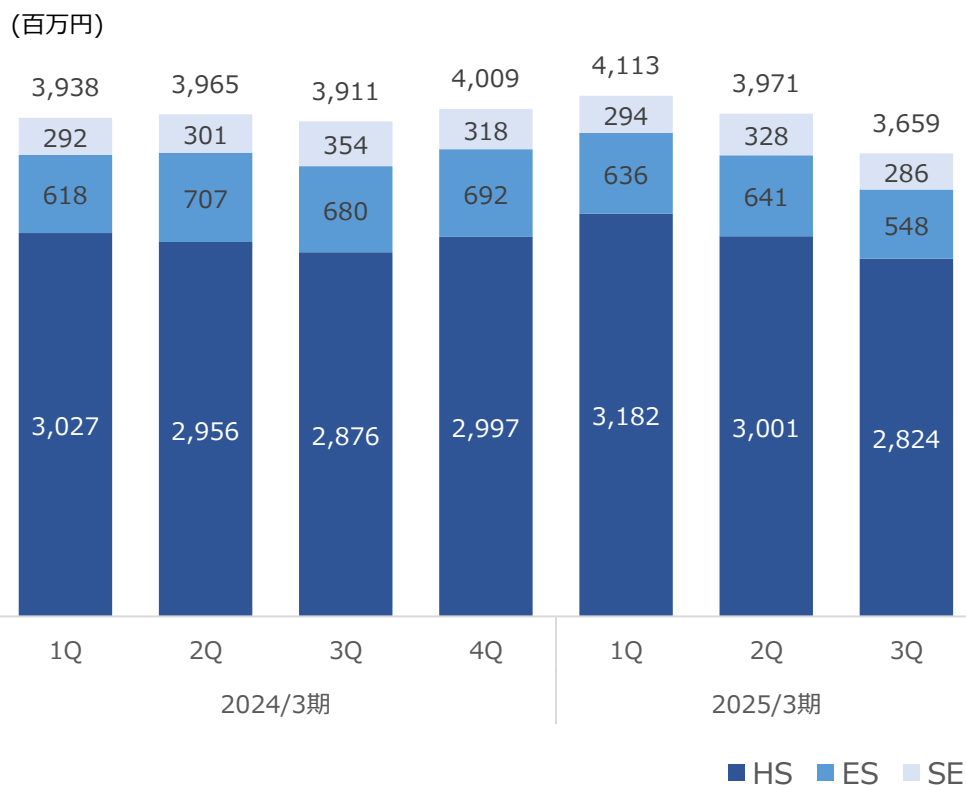
蓄電池

### 住環境領域 売上高構成比



## 住環境領域 | 売上高

法人営業体制強化に加えて、営業力と顧客基盤を生かした既存事業の拡大によりHS事業は引き続き堅調に推移しているものの、ES・SE事業の減収をカバーできず僅かに減収



対前年同期(3Q累計)

△0.6%減

HS事業 +1.7%増

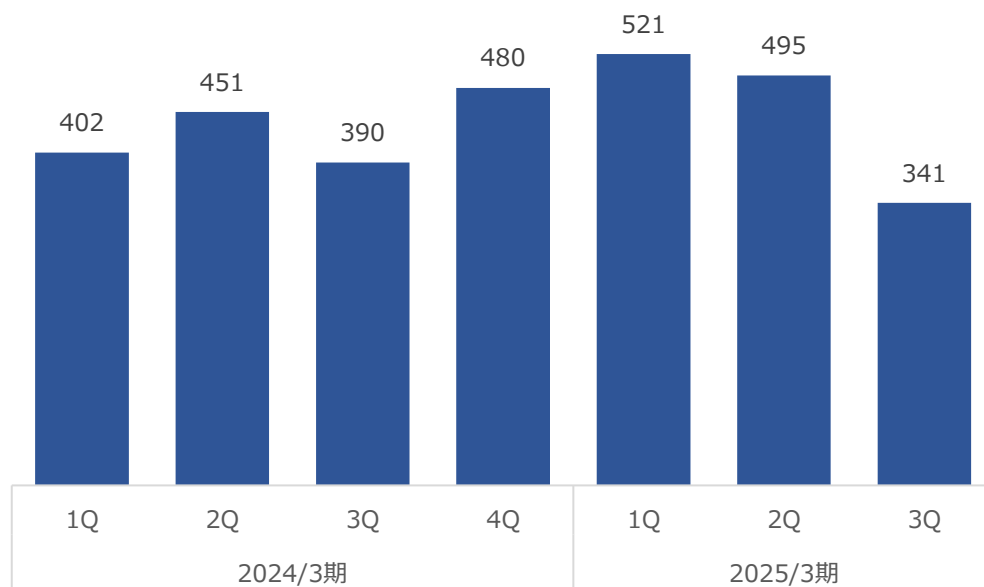
ES事業 △9.0%減

SE事業 △4.3%減

## 住環境領域 | 営業利益

高い限界利益率を維持し、安定した収益基盤を確保したことにより増益

(百万円)

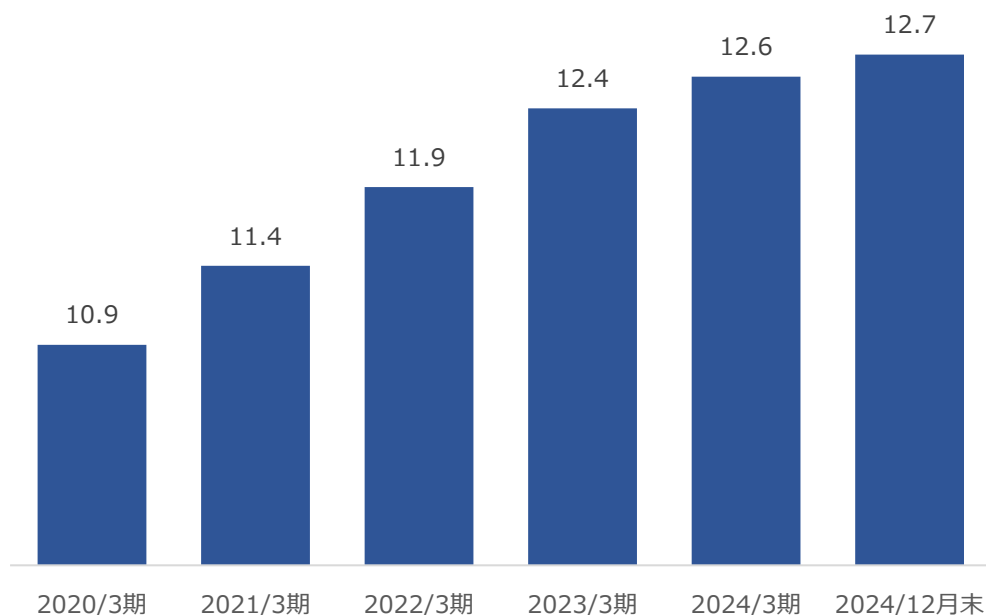


対前年同期(3Q累計)  
**+9.2%増**

## 住環境領域 | 顧客件数

### 2020年3月期以降、顧客基盤は約2万件増加

(万件)



## 強固な顧客基盤

# 12.7万件

(2024年12月末現在)

※顧客件数は、HS事業の保証契約継続中の顧客数を記載

1. 第2四半期(4-12月) 決算概況 P. 2
2. セグメント別概況 P. 10
  - ①住環境領域 (HS・ES・SE) P. 10
  - ②エネルギー領域 (PV・新電力) P. 15
  - ③資源循環領域 (環境資源) P. 20
3. トピックス P. 27
4. 通期連結業績見通し P. 36
5. 参考資料 P. 42

## エネルギー領域

環境負荷の低いエネルギーを普及拡大させる

- 法人向け自家消費太陽光発電設置
- 既設太陽光発電メンテナンス
- エネルギー事業者向け太陽光電源開発
- 電力の小売販売

サンニクスでは、お客様のニーズに合わせて、最適な太陽光発電システムのかたちをご提案、導入からメンテナンスまで、環境経営の推進をサポートするとともに、再生可能エネルギーの普及拡大を図ります。

### PV事業

工場の屋根やビルの屋上等の有効利用を促進。法人向け自家消費型・第三者所有型太陽光発電システムを中心に、太陽光発電によるコスト（電気代）削減、災害対策、環境経営をサポート。ご提案から設計、施工、アフターメンテナンスまで、トータルに提供します。



自家消費型/第三者所有型



非FIT電源開発

#### 【第三者所有型(PPAモデル)の仕組み】

PPA事業者が、お客様の敷地や屋根に、PPA事業者の費用負担により太陽光発電を設置(PPA事業者が所有・維持管理)。この太陽光発電で発電された電気を、PPA事業者が、お客様へ有償で供給する仕組みです。



O & M(メンテナンス)

WEBモニタリング(遠隔監視)から、法により義務化されている保守・点検まで。お客様の太陽光発電所の安心稼働をサポートします。

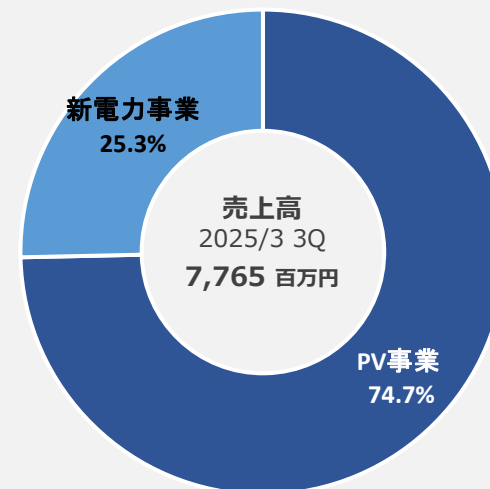
### 新電力事業

当社は、2001年に全国で8番目に特定規模電気事業者（電力小売）として登録し、2015年11月付で、経済産業省に登録小売電気事業者として登録されています。太陽光発電事業と電力販売は親和性の高い事業。シナジー効果で、幅広いサービスの提供を可能にします。



電力小売

### エネルギー領域 売上高構成比

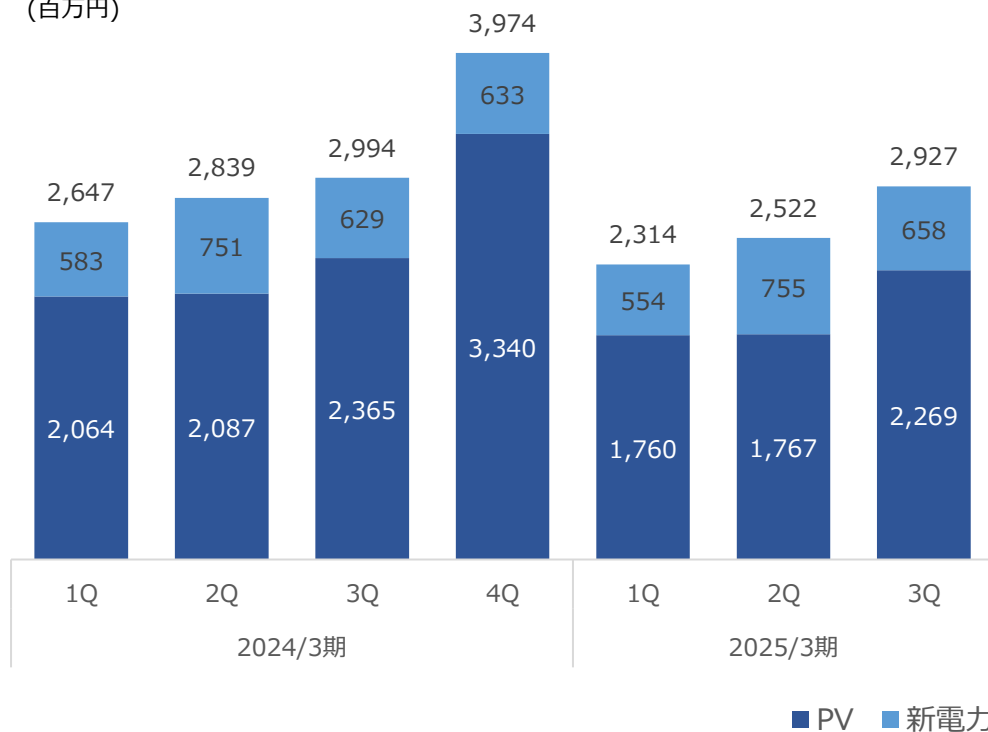




## エネルギー領域 | 売上高

PV事業において、電力会社との太陽光発電システムにかかる系統連系の遅れや案件の大型化・高度化等により受注から施工までの期間が長期化し、完工時期に遅れが生じている

(百万円)



対前年同期(3Q累計)

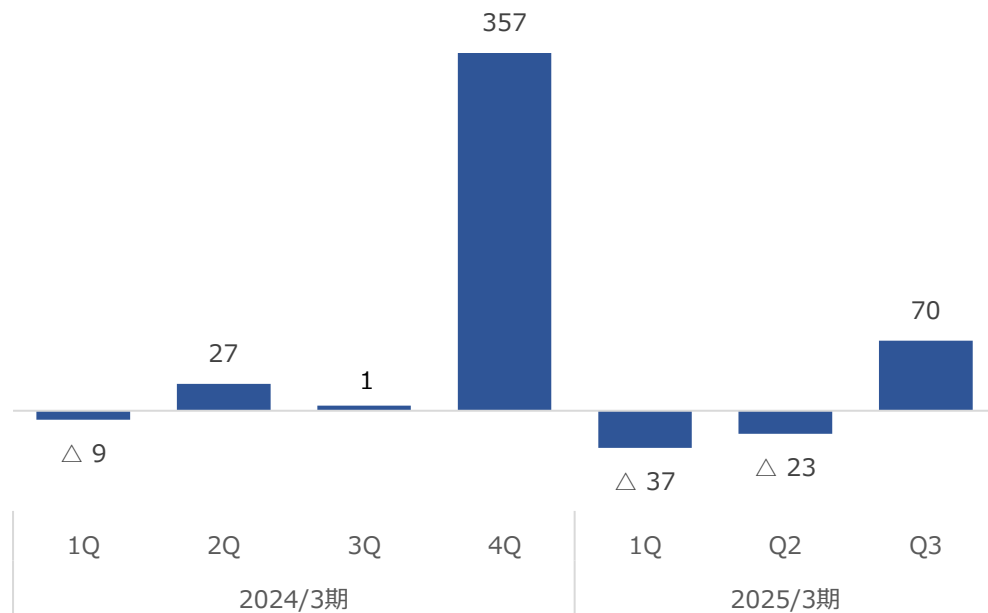
△ 8.4%減

PV事業 △ 11.0%減  
新電力事業 + 0.2%増

## エネルギー領域 | 営業利益

PV事業において、完工時期の遅れにより固定費を吸収できず減益となったものの、案件ごとの採算管理の徹底及び材料コストの低減により粗利率が改善し、3Q(10-12月)は黒字化

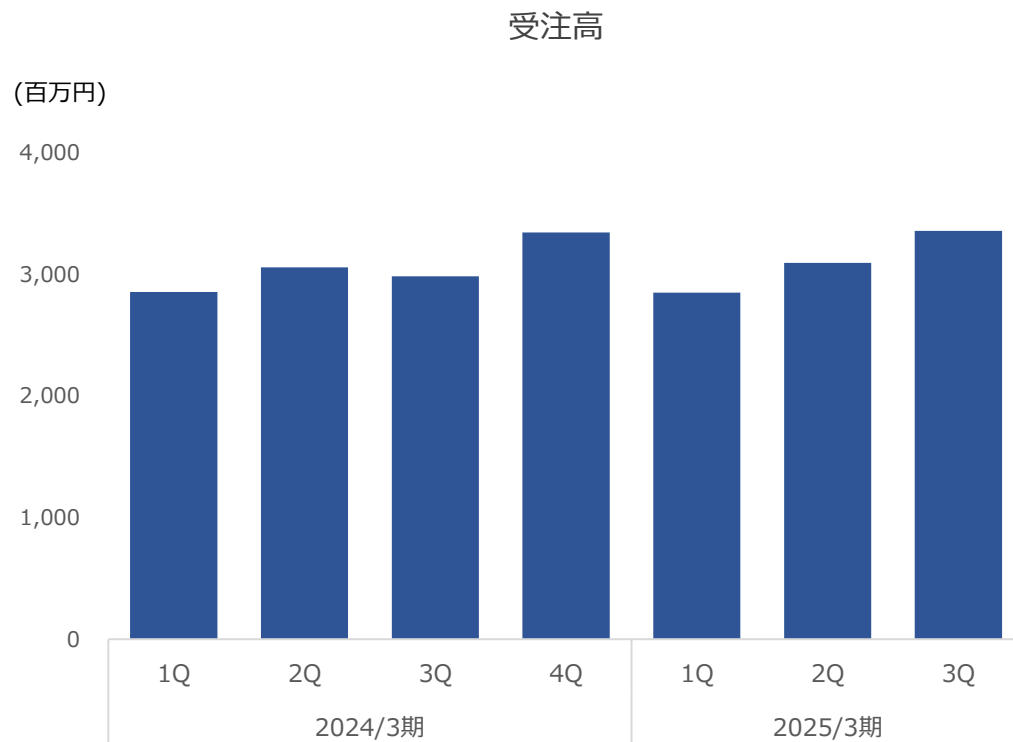
(百万円)



対前年同期(3Q累計)

△ 53.1%減

## エネルギー領域 | PV事業 受注状況



※受注高は、お客様より書面にて承諾をいただいた金額を記載

脱炭素社会実現に向けた取り組みの本格化と電力コストの高騰を背景に自家消費への関心がより高まっている

**受注は堅持**

**3Q(10-12月)では、前年同期を上回る受注が取れている**

1. 第2四半期(4-12月) 決算概況 P. 2
2. セグメント別概況 P. 10
  - ①住環境領域 (HS・ES・SE) P. 10
  - ②エネルギー領域 (PV・新電力) P. 15
  - ③**資源循環領域 (環境資源) P. 20**
3. トピックス P. 27
4. 通期連結業績見通し P. 36
5. 参考資料 P. 42



## 資源循環領域

## 資源を捨てずに循環させる

- 廃プラスチックの再資源化
- 廃プラ燃料による発電
- 廃液の浄化、再生燃料製造
- 産業廃棄物の最終処分

サンニクスでは、産業廃棄物系プラスチックの燃料化・リサイクルや、食品工場などから排出される廃液の浄化及びリサイクルなど、次世代の地球環境を考えた事業を通じ、循環型社会の構築に貢献します。

### 廃プラスチックの燃料化

産業廃棄物系プラスチックの燃料化を目的とした工場（プラスチック資源開発工場）を、全国各地に15工場展開。大きさや形がさまざまな廃プラスチックを細かく破碎することにより、石油・石炭などの代替燃料として再生。マテリアルリサイクルを本格的に開始しています。



プラスチック資源開発工場



プラスチック燃料

### 資源循環型発電システム

プラスチック資源開発工場で燃料化したプラスチックを、発電施設のエネルギー源として利用。石炭と比べて、発電熱量が高く、CO2排出量や焼却灰発生量が少なく、済むことから、環境負荷が低く、付加価値(非化石価値)の高い電気を供給します。



苫小牧発電所



最終処分場

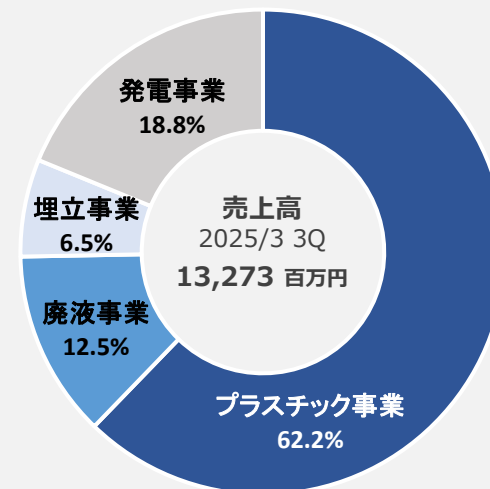
### 廃液の浄化処理・リサイクル

外食産業の店舗や食品工場、その他雑廃水ピットなどから排出される有機廃液などを、大量に受け入れる体制を整えています。一連の処理工程により、高濃度の汚濁成分を99%以上除去する能力を有しています。また、油分や、脱水汚泥の燃料化リサイクルも推進しています。



廃液処理工場

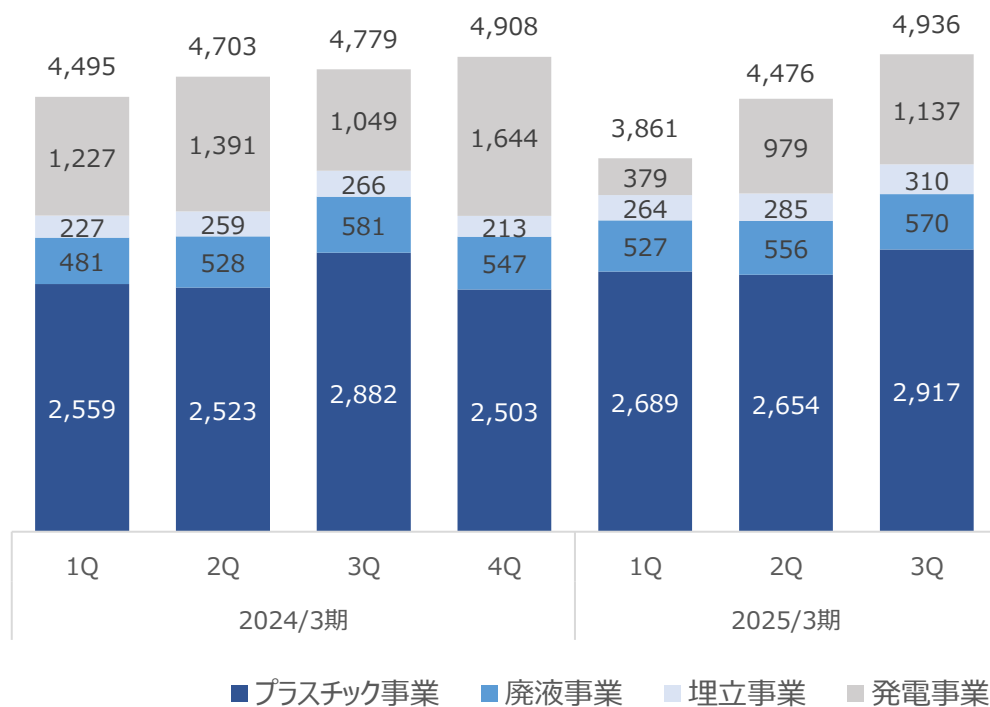
### 資源循環領域 売上高構成比



## 資源循環領域 | 売上高

発電事業の売電単価が大きく低下したことで減収  
一方で、プラスチック・廃液・埋立事業はそれぞれ伸長

(百万円)



対前年同期(3Q累計)

△5.0%減

プラスチック事業 +3.7%増

廃液事業 +4.0%増

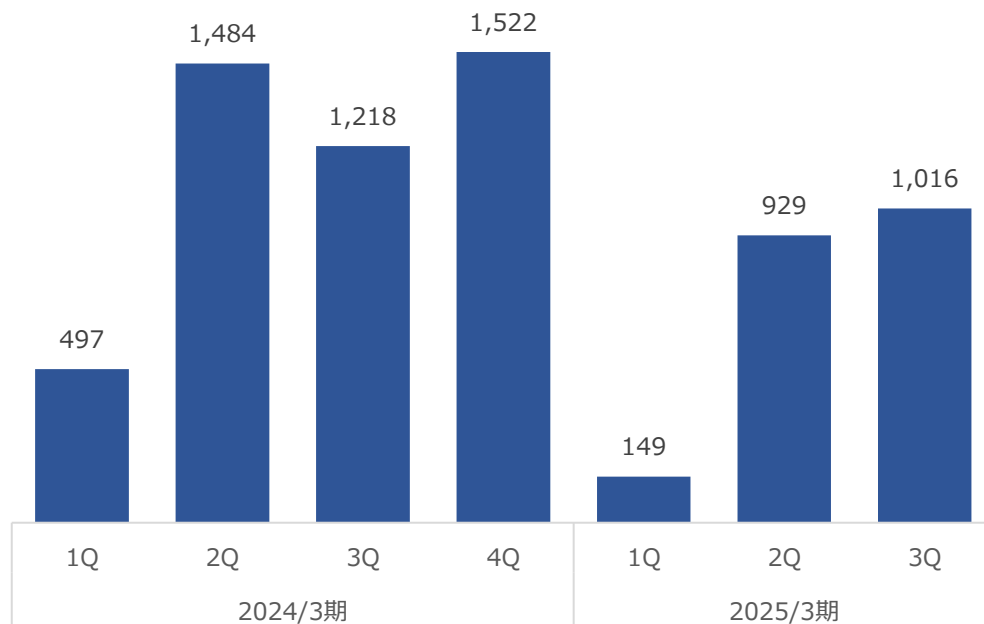
埋立事業 +14.4%増

発電事業 △31.9%減

## 資源循環領域 | 営業利益

発電事業の売電単価が大きく低下したことで減益となったものの、プラスチック・廃液・埋立事業は堅調に推移

(百万円)



対前年同期(3Q累計)

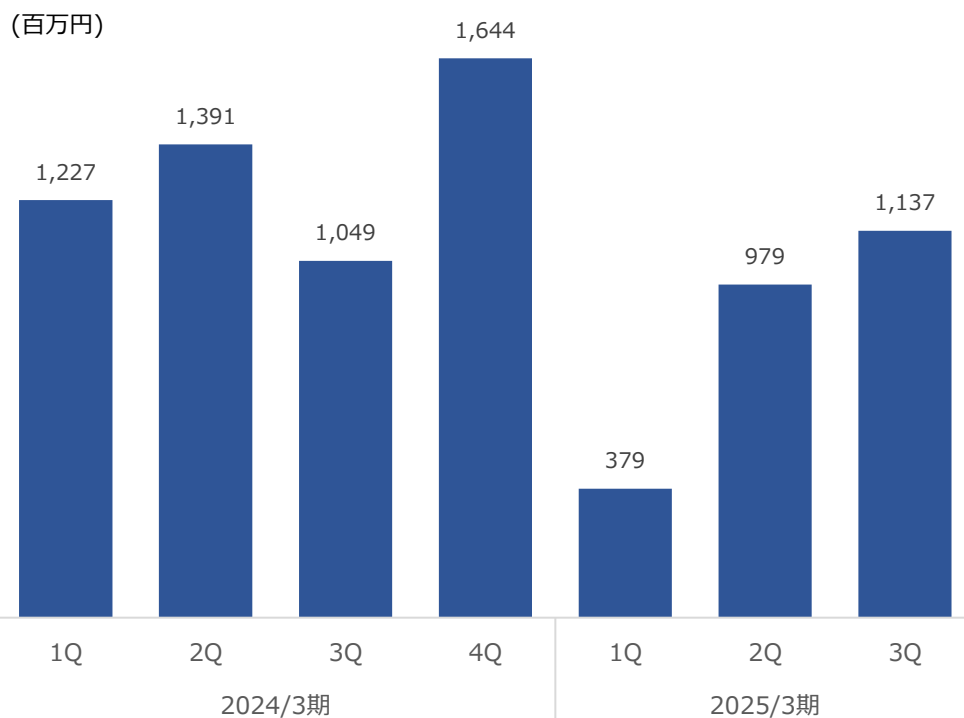
△34.5%減

プラスチック・廃液・埋立事業利益

+0.8%増

## 資源循環領域 | 発電事業 売上高

### 売電単価の低下及びボイラー更新にともなう稼働日数の減少(1Q)により減収



対前年同期(3Q累計)

△31.9%減

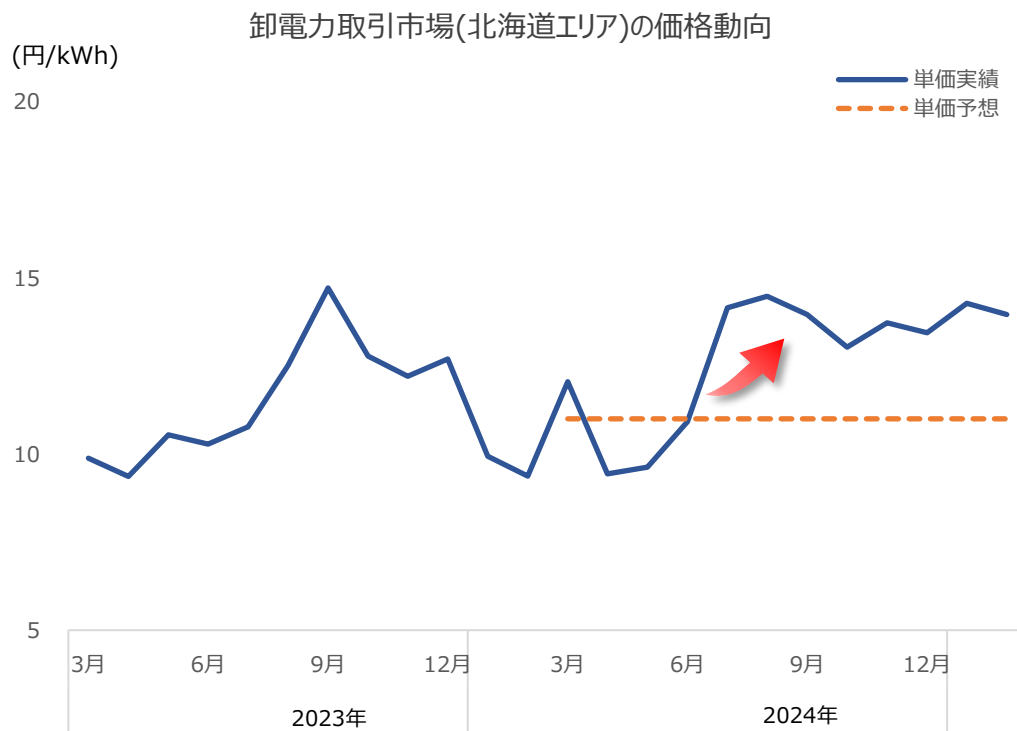
ボイラー更新(1Q:約2カ月)

将来的な安定稼働に向けて  
ボイラーの大規模な設備更新を実施



## 資源循環領域 | 発電事業の販売単価の推移

### 7月以降、卸電力取引市場の価格が上昇（好転）



### 販売面(発電事業)

7月以降、市場価格は上昇し、冬期においても上昇傾向にある。入札案件の販売価格も上昇し、新たな販売先の確保ができています。

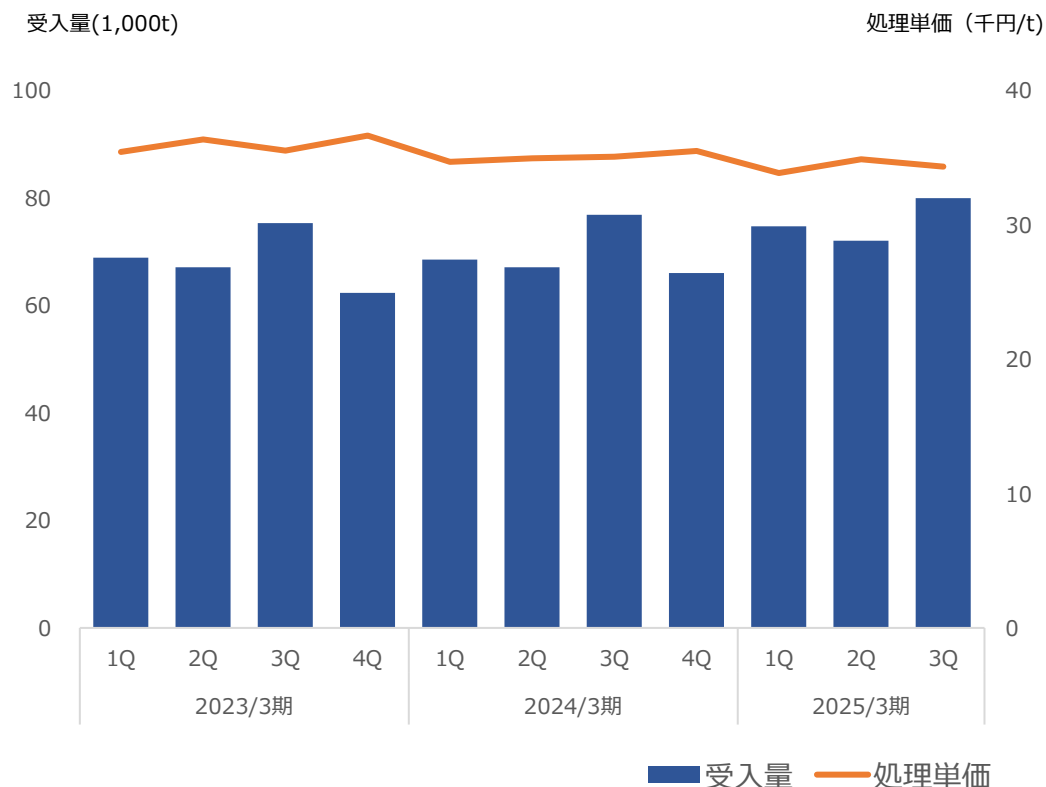
※卸電力取引市場（JEPX）の「スポット市場」資料を当社が加工

当社の電力調達に関わる重要な市場データとして、JEPX（スポット市場）価格の月間平均価格単価推移を記載しております。

JEPXの市場単価の予想は、価格予測サービスやLNG等の燃料価格の動向を鑑みて当社にて算出した数値を記載しております。

## 資源循環領域 | 廃プラスチックの受入状況

### 破碎設備の増強や対応可能品目の拡大により受入量の増加



※処理単価 = プラスチック燃料売上高 / 廃プラ受入量

対前年同期(3Q累計)  
**受入量 +6.7%増**  
**処理単価 △1.6%減**

1. 第2四半期(4-12月) 決算概況 P. 2
2. セグメント別概況 P. 10
  - ①住環境領域 (HS・ES・SE) P. 10
  - ②エネルギー領域 (PV・新電力) P. 15
  - ③資源循環領域 (環境資源) P. 20
3. トピックス P. 27
4. 通期連結業績見通し P. 36
5. 参考資料 P. 42

## エネルギー領域 | さらなる事業拡大に向けた取り組み

### 太陽光発電設備の導入・拡大を目指す

サニックスグループでは、工場の屋根やビルの屋上等の有効利用を促進し、自家消費型・第三者保有型太陽光発電システムを中心に、太陽光発電によるコスト（電気代）削減、災害対策、環境経営をサポートし、事業拡大を目指します。

サニックスグループの強み



#### 福岡県篠栗町の北勢門校区公共施設【3施設】

福岡県篠栗町「北勢門校区公共施設に対する太陽光発電設備導入事業（オンサイトPPA）」の事業者として選定されました。「ゼロカーボンシティささぐり」宣言に沿った取り組みとして、太陽光発電設備と蓄電池設備を導入する予定です。

2024年12月16日

▼プレスリリース▼



#### ◆太陽光発電設備等導入予定施設

- (1) 篠栗北中学校  
(敷地内社会体育館を含む)
- (2) 北勢門小学校
- (3) すぎのこ児童館



太陽光発電設備等導入予定施設である篠栗北中学校 全景、サニックスエンジニアリングにより撮影

# エネルギー領域 | さらなる事業拡大に向けた取り組み

## お客様からの信頼を獲得し、大規模な自治体案件が増加

### 自治体実績

福岡県福岡市 8施設

「福岡市市有施設への  
太陽光発電設備導入事業」

北海道苫小牧市 6施設

「苫小牧市市有施設への  
太陽光発電設備導入事業」

福岡県篠栗町 3施設

「北勢門校区公共施設に  
対する太陽光発電設備  
導入事業」

徳島県鳴門市 1施設

「ポートレース鳴門  
太陽光発電設備等設置業務」

栃木県大田原市 3施設

「大田原市公共施設への  
太陽光発電設備導入事業」

熊本県 3施設

「県有施設への  
再エネ導入事業」

神奈川県座間市 2施設

「座間市公共施設への  
太陽光発電設備導入事業」

鹿児島県枕崎市  
1施設

「枕崎市分散型  
電源強化事業」

神奈川県座間市 1施設

「座間市福祉センターへの  
太陽光発電設備導入事業」

## 資源循環領域 | さらなる事業基盤の拡大に向けた取り組み

### 再生油Bio「新エネ大賞」新エネルギー財団会長賞 受賞

サニックスグループでは、産業廃棄物由来の再生燃料「再生油Bio」が評価され、令和6年度「新エネ大賞」において新エネルギー財団会長賞を受賞しました。

▶現在、4つの公的な評価を頂いています！

- ・2021年 「北九州エコプレミアム」
- ・2023年 「福岡県県産リサイクル製品」
- ・2023年 「経済産業省産業技術環境局長賞」



表彰式の様子<左：寺坂 信昭氏（一般財団法人 新エネルギー財団 会長）、右：宗政 寛（弊社 代表取締役社長）>

2025年1月29日

[▼プレスリリース▼](#)



#### 再生油Bio

「再生油Bio」は、外食チェーン等の飲食店から発生する廃水や汚泥などの産業廃棄物から、ゴミや汚泥分を除去し、油分のみを分離回収することで、化石燃料の代替燃料として利用可能にした再生燃料です。

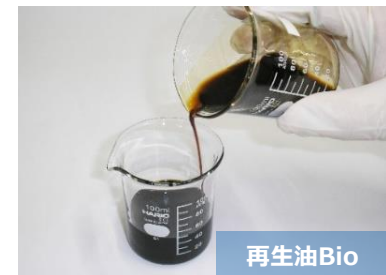
また、動植物性由来の油分を原料とする、カーボンニュートラルの実現に貢献できる燃料であるとともに、未利用資源の活用により、「産業廃棄物の削減」と「再資源化」の両面を実現した製品です。

2025年2月6日付の西日本新聞(朝刊)にも「再生油Bio・汚泥燃料化」について掲載されました。



[◀掲載記事](#)

※閲覧するには登録が必要です。



再生油Bio

## 資源循環領域 | さらなる事業基盤の拡大に向けた成長投資

### 「再生油Bio」の製造ラインを増設

2024年3月より稼働開始し、処理能力が2倍に拡大  
**生産能力 2,160t/年 ▶ 生産能力 4,320t/年**

さらに、汚泥を燃料化する設備投資を実施予定

2029年3月期までに**年1万トンの製造を目指し、4ライン**  
 を導入する予定



再生油Bio製造設備



ひびき工場（廃液処理工場）

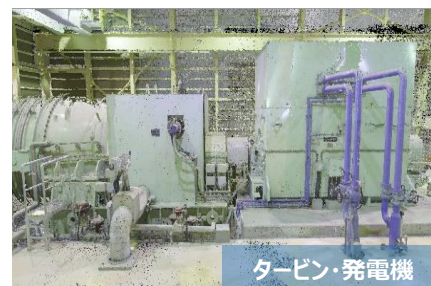
### 苫小牧発電所のボイラー・タービンをリニューアル

**ボイラー**は、2025年3月期よりボイラー内部の経年劣化した配  
 管を5年程度に分割して交換を実施中

**タービン・発電機**は、現在使用している廃プラ燃料の特性に合  
 わせた設計に変更・交換を2026年3月期に実施予定

※2025年3月中旬から6月末まで稼働停止予定

**発電出力 ▶ 平均8%程度の向上を見込む**



タービン・発電機



苫小牧発電所

2003年10月の稼働開始以降、約20年が経過した苫小牧発電  
 所の主要設備を中心に、将来的な安定稼働・効率化に向けた大  
 規模投資を実施中

# 資源循環領域 | さらなる事業基盤の拡大に向けた成長投資

## 最終処分場の増設

安定した埋立事業継続に向けて、第6期B処分場を建設中

### 2025年12月より稼働予定

第6期B処分場  
面積 : 58,370m<sup>2</sup>  
埋立容量 : 414,390m<sup>3</sup>



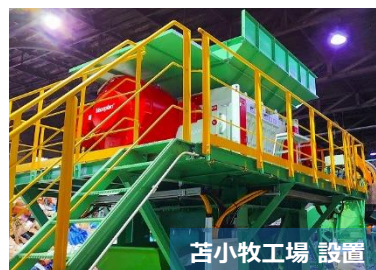
第6期B処分場 建設中



最終処分場 (全体)

## 前処理設備の増強を実施

- ▶ 処理能力が大幅に向上し、受入量の拡大へ
- 苫小牧工場 導入済
- 太田工場 2025年5月稼働予定  
受入可能量 約17%アップを見込む
- その他工場においても随時導入予定



苫小牧工場 設置

## マテリアルリサイクル破碎設備を導入

- ▶ マテリアルリサイクル破碎設備をあらたに導入し、本格的にマテリアルリサイクル事業へ参入
- 富士工場、真岡工場 導入済
- その他工場においても随時導入予定



真岡工場 設置

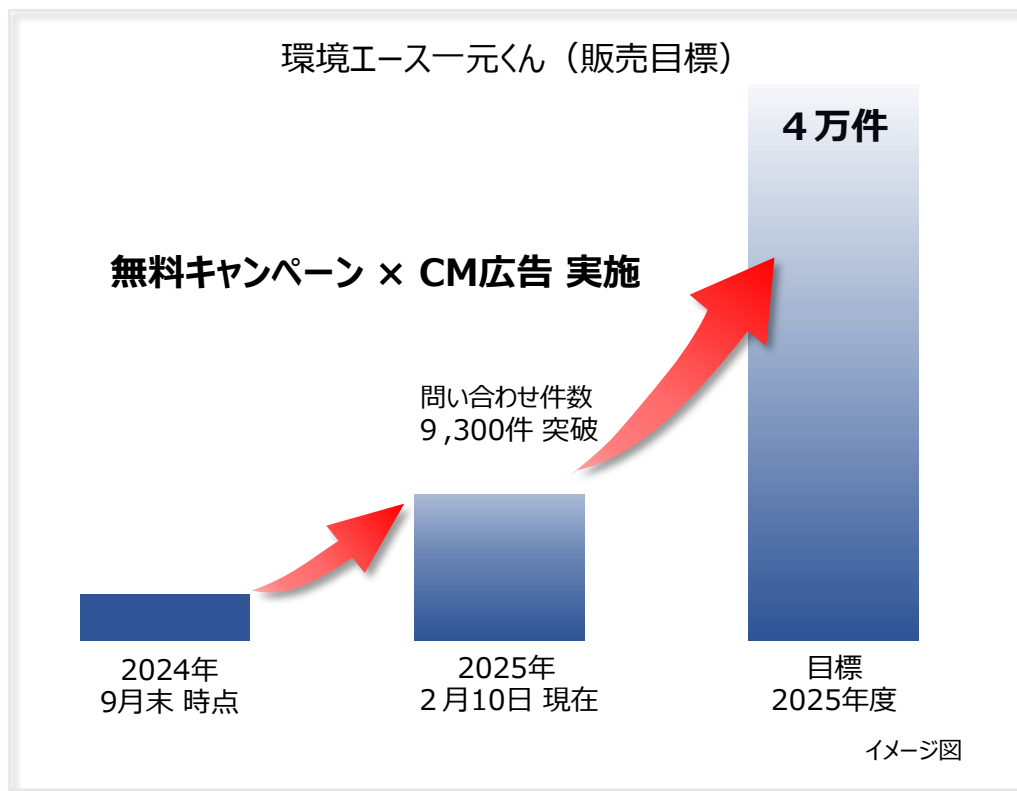


資源循環領域 | さらなる事業基盤の拡大に向けた取り組み

「環境エース一元くん」 2025年度末 4万件 の販売を目指す

問い合わせ件数 **9,300件 突破**

YouTube再生回数  
**400万回 突破**



▼ CM動画はコチラ ▼

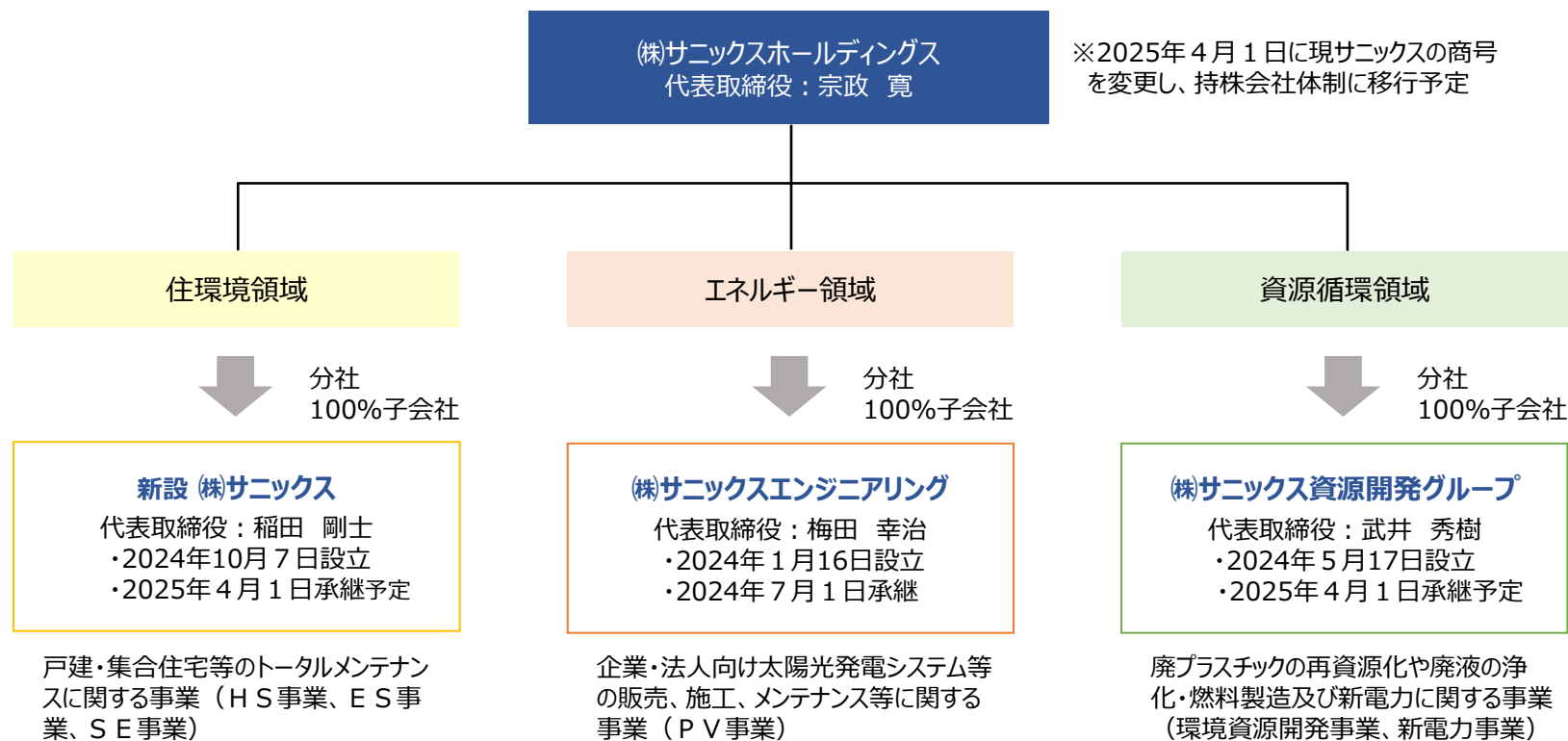


問い合わせ件数及びYouTube再生回数は  
2025年2月10日現在の数値です。

# ホールディングス体制への移行（進捗状況）

## 2025年4月1日の移行に向けて、順調に進捗中

※2025年4月1日に現サンニックスの商号を変更し、持株会社体制に移行予定



2024年11月14日開示【再掲】

**2024年9月2日、繰越欠損金を解消(単体:欠損填補)**

**財務体質の健全化を図るとともに、  
資本政策の柔軟性と機動性を確保**



**現中期経営計画において  
経営基盤の強化と通期計画の達成を図り  
早期復配を目指す**

1. 第2四半期(4-12月) 決算概況 P. 2
2. セグメント別概況 P. 10
  - ①住環境領域 (HS・ES・SE) P. 10
  - ②エネルギー領域 (PV・新電力) P. 15
  - ③資源循環領域 (環境資源) P. 20
3. トピックス P. 27
4. 通期連結業績見通し P. 36
5. 参考資料 P. 42

**業績見通しについては、2024/5/15発表より変更はありません**

2025年3月期 通期連結業績見通し

●売上高 46,246百万円 (前期比 98.0%)

●営業利益 1,715百万円 (前期比 45.8%) (再掲)

	上半期		下半期		通期	
	計画	前年同期差異	計画	前年同期差異	計画	前期差異
(百万円)						
<b>売上高</b>	<b>22,726</b>	+137	<b>23,519</b>	△1,058	<b>46,246</b>	△921
<b>売上総利益</b>	<b>7,848</b>	△700	<b>8,153</b>	△1,400	<b>16,001</b>	△2,100
(売上高売上総利益率)	<b>34.5%</b>		<b>34.7%</b>		<b>34.6%</b>	
<b>営業利益</b>	<b>613</b>	△868	<b>1,102</b>	△1,159	<b>1,715</b>	△2,028
(売上高営業利益率)	<b>2.7%</b>		<b>4.7%</b>		<b>3.7%</b>	
<b>経常利益</b>	<b>483</b>	△860	<b>957</b>	△1,165	<b>1,440</b>	△2,025
(売上高経常利益率)	<b>2.1%</b>		<b>4.1%</b>		<b>3.1%</b>	
<b>親会社株主に帰属する当期純利益</b>	<b>366</b>	△759	<b>727</b>	△843	<b>1,093</b>	△1,603
(売上高当期純利益率)	<b>1.6%</b>		<b>3.1%</b>		<b>2.4%</b>	

## 通期連結業績見通し | セグメント別見通し

### ● 主要因

- 住環境領域 増収増益の見通し：営業力と顧客基盤を生かした既存事業の拡大
- 資源循環領域 減収減益の見通し：苫小牧発電所の売電単価の低下

	上半期		下半期		通期		
	(百万円)	計画	前年同期差異	計画	前年同期差異	計画	前期差異
<b>売上高</b>		<b>22,726</b>	+ 137	<b>23,519</b>	△ 1,058	<b>46,246</b>	△ 921
住環境領域		<b>8,977</b>	+ 1,073	<b>8,726</b>	+ 805	<b>17,704</b>	+ 1,879
エネルギー領域		<b>6,115</b>	+ 629	<b>6,204</b>	△ 764	<b>12,320</b>	△ 134
資源循環領域		<b>7,633</b>	△ 1,565	<b>8,587</b>	△ 1,099	<b>16,221</b>	△ 2,665
<b>営業利益</b>		<b>613</b>	△ 868	<b>1,102</b>	△ 1,159	<b>1,715</b>	△ 2,028
住環境領域		<b>1,336</b>	+ 483	<b>1,043</b>	+ 171	<b>2,379</b>	+ 655
エネルギー領域		<b>174</b>	+ 155	<b>78</b>	△ 279	<b>252</b>	△ 124
資源循環領域		<b>566</b>	△ 1,414	<b>1,297</b>	△ 1,443	<b>1,863</b>	△ 2,858
配賦不能		<b>△ 1,464</b>	△ 92	<b>△ 1,316</b>	+ 391	<b>△ 2,780</b>	+ 299

## 通期連結業績見通し | セグメント別見通し【住環境領域】

### ● 前期比 増収・増益

- 既存顧客への継続的なフォロー体制の拡充及び、法人営業体制強化による顧客件数の増加を図る
- 白蟻防除から住宅環境ニーズへ幅広く対応（住宅用PPAや蓄電池など）
- 集合住宅向けには、防錆機器（商品名：ドールマンショック）から給排水設備の保全対策へ拡大

(百万円)	上半期			下半期			通期		
	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前期差異
<b>売上高</b>	<b>8,977</b>		+ 1,073	<b>8,726</b>		+ 805	<b>17,704</b>		+ 1,879
H S 事業	<b>6,816</b>	75.9%	+ 832	<b>6,502</b>	74.5%	+ 628	<b>13,318</b>	75.2%	+ 1,461
E S 事業	<b>1,366</b>	15.2%	+ 39	<b>1,433</b>	16.4%	+ 59	<b>2,800</b>	15.8%	+ 99
S E 事業	<b>795</b>	8.9%	+ 200	<b>791</b>	9.1%	+ 117	<b>1,586</b>	9.0%	+ 318
<b>売上原価</b>	<b>3,941</b>	43.9%	+ 559	<b>4,066</b>	46.6%	+ 492	<b>8,008</b>	45.2%	+ 1,051
うち、材料費	<b>1,378</b>	15.4%	+ 250	<b>1,402</b>	16.1%	+ 215	<b>2,781</b>	15.7%	+ 465
うち、労務費	<b>1,320</b>	14.7%	+ 78	<b>1,388</b>	15.9%	+ 158	<b>2,708</b>	15.3%	+ 237
<b>売上総利益</b>	<b>5,035</b>	56.1%	+ 514	<b>4,660</b>	53.4%	+ 313	<b>9,695</b>	54.8%	+ 828
<b>販売費・一般管理費</b>	<b>3,699</b>	41.2%	+ 30	<b>3,617</b>	41.4%	+ 141	<b>7,316</b>	41.3%	+ 172
うち、人件費	<b>2,332</b>	26.0%	+ 92	<b>2,333</b>	26.7%	+ 137	<b>4,665</b>	26.4%	+ 230
<b>営業利益</b>	<b>1,336</b>	14.9%	+ 483	<b>1,043</b>	12.0%	+ 171	<b>2,379</b>	13.4%	+ 655

## 通期連結業績見通し | セグメント別見通し【エネルギー領域】

### ●前期比 減収・減益

- 太陽光発電システムにおいては、「自家消費」太陽光発電システム販路拡大を図るとともに、既設太陽光発電所の機器交換・アフターメンテナンスの体制強化を進める
- 苫小牧発電所の非化石価値電力の付加価値を有効活用した売電を推進

(百万円)	上半期			下半期			通期		
	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前期差異
<b>売上高</b>	<b>6,115</b>		+ 629	<b>6,204</b>		△ 764	<b>12,320</b>		△ 134
P V 事業	<b>4,898</b>	80.1%	+ 746	<b>4,986</b>	80.4%	△ 720	<b>9,884</b>	80.2%	+ 26
新電力事業	<b>1,217</b>	19.9%	△ 117	<b>1,218</b>	19.6%	△ 44	<b>2,436</b>	19.8%	△ 161
<b>売上原価</b>	<b>4,917</b>	80.4%	+ 468	<b>5,072</b>	81.7%	△ 483	<b>9,989</b>	81.1%	△ 15
うち、材料費	<b>3,427</b>	56.0%	+ 246	<b>3,498</b>	56.4%	△ 420	<b>6,925</b>	56.2%	△ 173
うち、労務費	<b>316</b>	5.2%	+ 17	<b>316</b>	5.1%	+ 12	<b>633</b>	5.1%	+ 29
<b>売上総利益</b>	<b>1,198</b>	19.6%	+ 161	<b>1,132</b>	18.3%	△ 280	<b>2,330</b>	18.9%	△ 119
<b>販売費・一般管理費</b>	<b>1,024</b>	16.7%	+ 5	<b>1,054</b>	17.0%	△ 1	<b>2,078</b>	16.9%	+ 4
うち、人件費	<b>539</b>	8.8%	△ 7	<b>572</b>	9.2%	+ 1	<b>1,112</b>	9.0%	△ 6
<b>営業利益</b>	<b>174</b>	2.8%	+ 155	<b>78</b>	1.3%	△ 279	<b>252</b>	2.1%	△ 124



# 通期連結業績見通し | セグメント別見通し【資源循環領域】

## ● 前期比 減収・減益

- プラスチック事業においては、設備投資による受入量の拡大及び販路拡大
- プラスチック原料として再利用する「マテリアルリサイクル」への展開を進める
- 契約書・マニフェスト、自治体への実績報告等のサポートに加え、サステナビリティ報告に必要な排出量算出ができるように、廃棄業務管理システムの機能を拡充
- 廃液処理においては、重油代替燃料「再生油Bio」の製造増強や、廃液処理後に発生する汚泥の再生燃料化を推進

(百万円)	上半期			下半期			通期		
	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前期差異
<b>売上高</b>	<b>7,633</b>		△ 1,565	<b>8,587</b>		△ 1,099	<b>16,221</b>		△ 2,665
プラスチック事業	<b>5,049</b>	66.2%	△ 33	<b>5,213</b>	60.7%	△ 171	<b>10,263</b>	63.3%	△ 204
発電事業	<b>1,053</b>	13.8%	△ 1,565	<b>1,850</b>	21.5%	△ 844	<b>2,903</b>	17.9%	△ 2,409
廃液事業	<b>1,136</b>	14.9%	+ 126	<b>1,198</b>	14.0%	+ 69	<b>2,335</b>	14.4%	+ 196
埋立事業	<b>393</b>	5.1%	△ 93	<b>325</b>	3.8%	△ 154	<b>718</b>	4.4%	△ 248
<b>売上原価</b>	<b>6,018</b>	78.8%	△ 190	<b>6,227</b>	72.5%	+ 333	<b>12,246</b>	75.5%	+ 143
うち、労務費	<b>995</b>	13.0%	+ 45	<b>1,004</b>	11.7%	+ 4	<b>1,999</b>	12.3%	+ 50
<b>売上総利益</b>	<b>1,614</b>	21.2%	△ 1,375	<b>2,360</b>	27.5%	△ 1,433	<b>3,974</b>	24.5%	△ 2,809
<b>販売費・一般管理費</b>	<b>1,048</b>	13.7%	+ 39	<b>1,063</b>	12.4%	+ 9	<b>2,111</b>	13.0%	+ 48
うち、人件費	<b>637</b>	8.3%	+ 36	<b>640</b>	7.5%	+ 5	<b>1,278</b>	7.9%	+ 42
<b>営業利益</b>	<b>566</b>	7.4%	△ 1,414	<b>1,297</b>	15.1%	△ 1,443	<b>1,863</b>	11.5%	△ 2,858

1. 第2四半期(4-9月) 決算概況 P. 2
2. セグメント別概況 P. 10
  - ①住環境領域 (HS・ES・SE) P. 10
  - ②エネルギー領域 (PV・新電力) P. 15
  - ③資源循環領域 (環境資源) P. 20
3. トピックス P. 27
4. 通期連結業績見通し P. 36
5. 参考資料 P. 42

## 第3四半期(4-12月) 決算概況

(百万円)	2024/3期 3Q 実績	2025/3期 3Q 実績	増減額	増減率	2025/3期 通期計画	進捗率
売上高	34,275	<b>32,782</b>	△ 1,492	△ 4.4%	46,246	70.9%
売上総利益 (売上高売上総利益率)	12,999 37.9%	<b>12,096</b> <b>36.9%</b>	△ 902	△ 6.9%	16,001 34.6%	75.6%
営業利益 (売上高営業利益率)	2,419 7.1%	<b>1,438</b> <b>4.4%</b>	△ 980	△ 40.5%	1,715 3.7%	83.9%
経常利益 (売上高経常利益率)	2,242 6.5%	<b>1,201</b> <b>3.7%</b>	△ 1,040	△ 46.4%	1,440 3.1%	83.4%
親会社株主に帰属 する四半期純利益 (売上高四半期純利益率)	1,806 5.3%	<b>831</b> <b>2.5%</b>	△ 975	△ 54.0%	1,093 2.4%	76.0%

## 第3四半期(4-12月) セグメント別概況

(百万円)	2024/3期 3Q 実績	2025/3期 3Q 実績	増減額	増減率	2025/3期 通期計画	進捗率
<b>売上高</b>	34,275	<b>32,782</b>	△ 1,492	△ 4.4%	46,246	70.9%
住環境領域	11,815	<b>11,743</b>	△ 72	△ 0.6%	17,704	66.3%
エネルギー領域	8,481	<b>7,765</b>	△ 716	△ 8.4%	12,320	63.0%
資源循環領域	13,978	<b>13,273</b>	△ 704	△ 5.0%	16,221	81.8%
<b>営業利益</b>	2,419	<b>1,438</b>	△ 980	△ 40.5%	1,715	83.9%
住環境領域	1,243	<b>1,358</b>	+ 114	+ 9.2%	2,379	57.1%
エネルギー領域	19	<b>9</b>	△ 10	△ 53.1%	252	3.7%
資源循環領域	3,200	<b>2,096</b>	△ 1,103	△ 34.5%	1,863	112.5%
本社費用	△ 2,044	<b>△ 2,024</b>	+ 19	—	△ 2,780	—

## セグメント別概況 | 住環境領域

	2024/3期 3Q 実績	2025/3期 3Q 実績	増減額	増減率	2025/3期 通期計画	進捗率
(百万円)						
<b>売上高</b>	11,815	<b>11,743</b>	△ 72	△ 0.6%	17,704	66.3%
H S 事業	8,859	<b>9,009</b>	+ 149	+ 1.7%	13,318	67.6%
E S 事業	2,007	<b>1,826</b>	△ 181	△ 9.0%	2,800	65.2%
S E 事業	948	<b>908</b>	△ 40	△ 4.3%	1,586	57.3%
<b>売上原価</b>	5,164	<b>5,176</b>	+ 12	+ 0.2%	8,008	64.6%
うち、材料費	1,742	<b>1,606</b>	△ 135	△ 7.8%	2,781	57.8%
うち、労務費	1,856	<b>1,842</b>	△ 14	△ 0.8%	2,708	68.0%
<b>売上総利益</b>	6,651	<b>6,567</b>	△ 84	△ 1.3%	9,695	67.7%
<b>販売費・一般管理費</b>	5,407	<b>5,208</b>	△ 198	△ 3.7%	7,316	71.2%
うち、人件費	3,329	<b>3,212</b>	△ 117	△ 3.5%	4,665	68.8%
<b>営業利益</b>	1,243	<b>1,358</b>	+ 114	+ 9.2%	2,379	57.1%

## セグメント別概況 | エネルギー領域

(百万円)	2024/3期 3Q 実績	2025/3期 3Q 実績	増減額	増減率	2025/3期 通期計画	進捗率
売上高	8,481	<b>7,765</b>	△ 716	△ 8.4%	12,320	63.0%
P V 事業	6,516	<b>5,797</b>	△ 719	△ 11.0%	9,884	58.6%
新電力事業	1,964	<b>1,967</b>	+ 3	+ 0.2%	2,436	80.8%
売上原価	6,858	<b>6,008</b>	△ 849	△ 12.4%	9,989	60.2%
うち、材料費	4,869	<b>4,130</b>	△ 739	△ 15.2%	6,925	59.6%
うち、労務費	444	<b>459</b>	+ 14	+ 3.3%	633	72.5%
売上総利益	1,622	<b>1,756</b>	+ 133	+ 8.2%	2,330	75.3%
販売費・一般管理費	1,602	<b>1,746</b>	+ 144	+ 9.0%	2,078	84.1%
うち、人件費	827	<b>936</b>	+ 109	+ 13.2%	1,112	84.2%
営業利益	19	<b>9</b>	△ 10	△ 53.1%	252	3.7%

## セグメント別概況 | 資源循環領域

(百万円)	2024/3期 3Q 実績	2025/3期 3Q 実績	増減額	増減率	2025/3期 通期計画	進捗率
<b>売上高</b>	13,978	<b>13,273</b>	△ 704	△ 5.0%	16,221	81.8%
プラスチック事業	7,965	<b>8,261</b>	+ 296	+ 3.7%	10,263	80.5%
発電事業	3,668	<b>2,496</b>	△ 1,171	△ 31.9%	2,903	86.0%
廃液事業	1,591	<b>1,654</b>	+ 62	+ 4.0%	2,335	70.8%
埋立事業	753	<b>861</b>	+ 108	+ 14.4%	718	120.0%
<b>売上原価</b>	9,252	<b>9,500</b>	+ 247	+ 2.7%	12,246	77.6%
うち、労務費	1,434	<b>1,519</b>	+ 84	+ 5.9%	1,999	76.0%
<b>売上総利益</b>	4,725	<b>3,773</b>	△ 952	△ 20.1%	3,974	94.9%
<b>販売費・一般管理費</b>	1,525	<b>1,677</b>	+ 151	+ 9.9%	2,111	79.4%
うち、人件費	906	<b>946</b>	+ 40	+ 4.5%	1,278	74.1%
<b>営業利益</b>	3,200	<b>2,096</b>	△ 1,103	△ 34.5%	1,863	112.5%

## 財務状況

単位:百万円	2024/3期	2025/3期	前 期 末	
	期末	3Q末	差異	増減率
流動資産	16,211	<b>15,013</b>	△ 1,198	△ 7.4%
固定資産	20,753	<b>22,492</b>	+ 1,738	+ 8.4%
<b>資産合計</b>	36,965	<b>37,506</b>	+ 540	+ 1.5%
流動負債	18,010	<b>18,036</b>	+ 25	+ 0.1%
固定負債	10,042	<b>9,752</b>	△ 290	△ 2.9%
<b>負債合計</b>	28,053	<b>27,788</b>	△ 265	△ 0.9%
<b>純資産合計</b>	8,912	<b>9,717</b>	+ 805	+ 9.0%
<b>負債純資産合計</b>	36,965	<b>37,506</b>	+ 540	+ 1.5%
<b>自己資本比率</b>	24.1%	<b>25.9%</b>		



## 設備投資・減価償却費 実績

(百万円)	2024/3期 3Q 実績	2025/3期 3Q 実績
住環境領域	15	15
エネルギー領域	128	393
資源循環領域	1,798	2,385
本社	149	34
<b>設備投資合計</b>	<b>2,090</b>	<b>2,829</b>
<b>減価償却費</b>	<b>1,217</b>	<b>1,251</b>

### 【主な設備投資】

#### 【資源循環領域】

- 苫小牧発電所にかかる投資 : 1,615百万円
- 廃プラスチック処理設備にかかる投資 : 486百万円
- 廃液処理にかかる投資 : 233百万円

#### 【エネルギー領域】

- 自治体向けPPAにかかる投資 : 282百万円

## セグメント別 人員・拠点数

	2024/3期 期末		2025/3期 3Q末		人員増減
	拠点数	人員数	拠点数	人員数	
H S 事業	62	864	<b>62</b>	<b>863</b>	△1
E S 事業	12	162	<b>10</b>	<b>139</b>	△23
S E 事業	14	75	<b>14</b>	<b>70</b>	△5
P V 事業	30	245	<b>27</b>	<b>267</b>	+22
新電力事業	1	13	<b>1</b>	<b>16</b>	+3
環境資源開発事業	19	455	<b>19</b>	<b>484</b>	+29
本社	—	235	—	<b>230</b>	△5
<b>合 計</b>	—	<b>2,049</b>	—	<b>2,069</b>	<b>+20</b>

※上記拠点数には、同一拠点を含む

※環境資源開発部門は、発電所1拠点、最終処分場1拠点含む

## 重要経営指標

		2021/3期 実績	2022/3期 実績	2023/3期 実績	2024/3期 実績	2025/3期 計画
自己資本当期純利益率	ROE	27.9%	—	24.8%	36.1%	<b>11.6%</b>
総資産経常利益率	ROA	6.4%	—	4.5%	9.8%	<b>3.8%</b>
自己資本比率		24.5%	13.5%	18.0%	24.1%	<b>25.4%</b>
投下資本利益率	ROIC	11.2%	—	8.4%	14.4%	<b>6.4%</b>
設備投資 (百万円)		3,083	2,776	1,566	2,743	<b>3,900</b>
減価償却費 (百万円)		1,097	1,509	1,889	1,654	<b>1,700</b>

# 補足資料

# 企業理念 「次世代へ快適な環境を」

## エネルギー領域

- PV
- 新電力

『環境負荷の低い

エネルギーが当たり前の社会』

再エネの主力電源化、分散電源、自家消費、  
マイクログリッド、V P P

『快適な住環境を次世代に  
つなぐのが当たり前の社会』

長期優良住宅、住宅のストック化、既存住宅  
流通市場形成

## 住環境領域

- HS
- ES
- SE

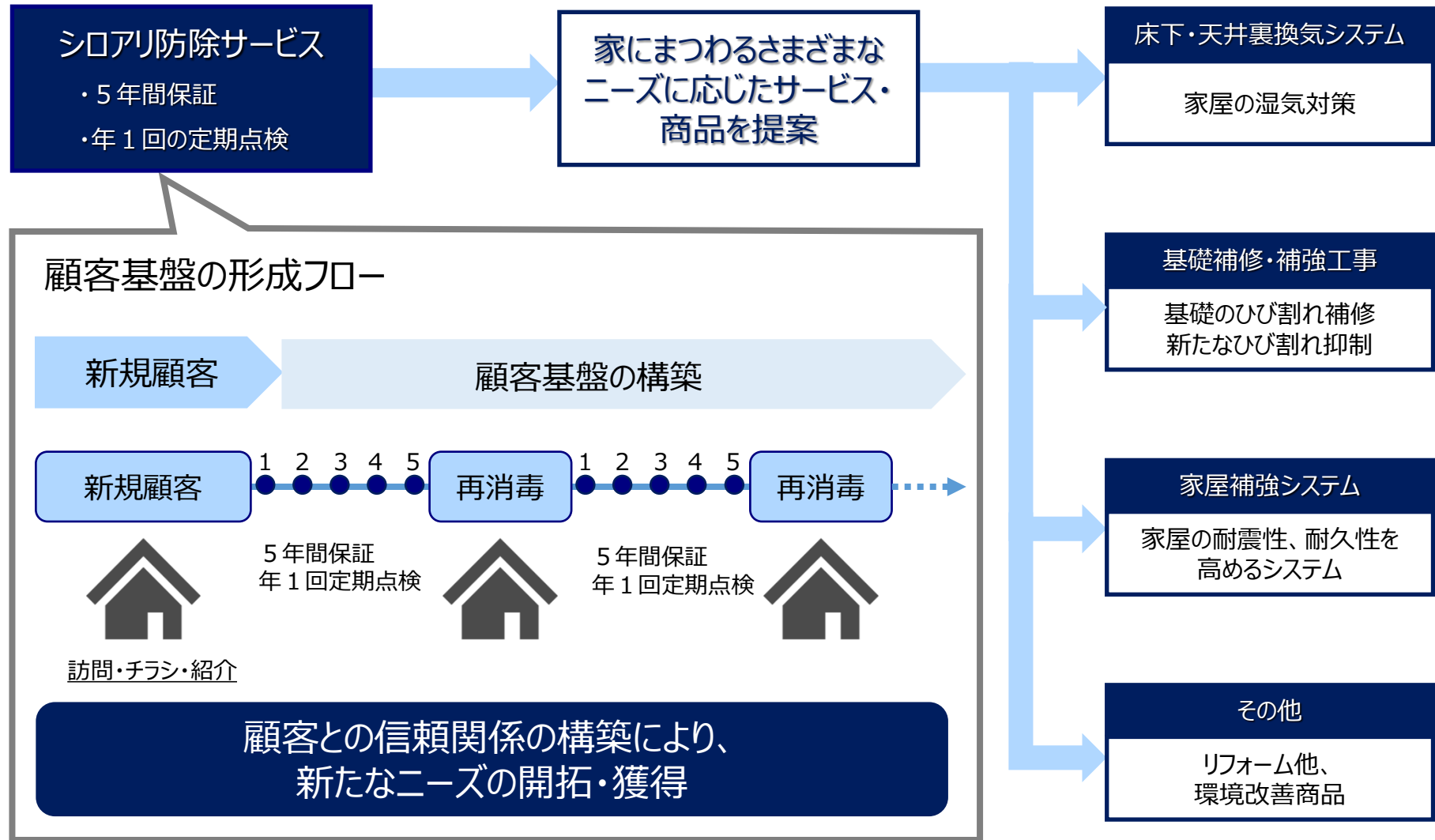
## 資源循環領域

- 環境資源

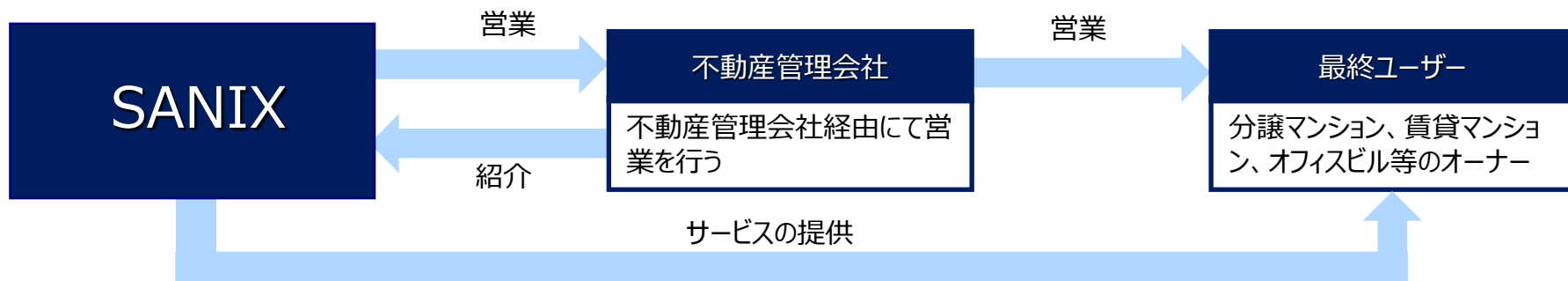
『捨てないのが当たり前の社会』

環境基本計画、循環型社会形成推進、  
プラスチック資源循環戦略

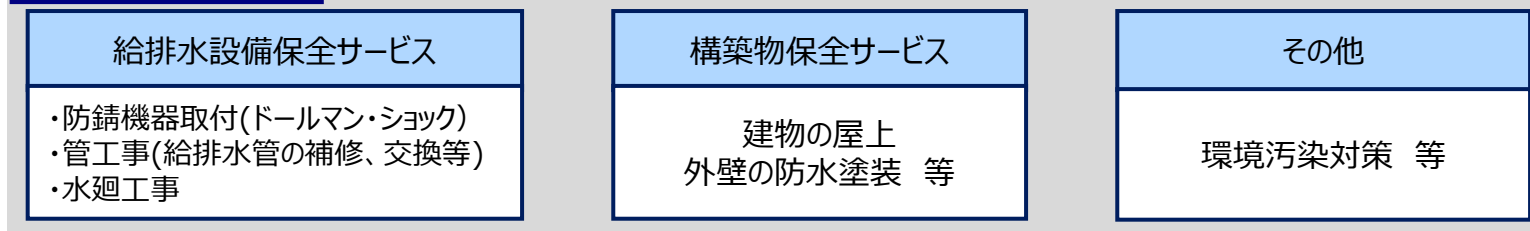
## HS事業構造



## E S 事業構造



### 主なサービス・商品



### SANIX/PCOサービス

害虫・害獣の駆除・予防サービス、HACCP

レストラン、飲食店、ホテル、食品工場 等



新規契約

年間契約 (月 1 回の点検、消毒)



1年目

年間契約のため、継続率が高い

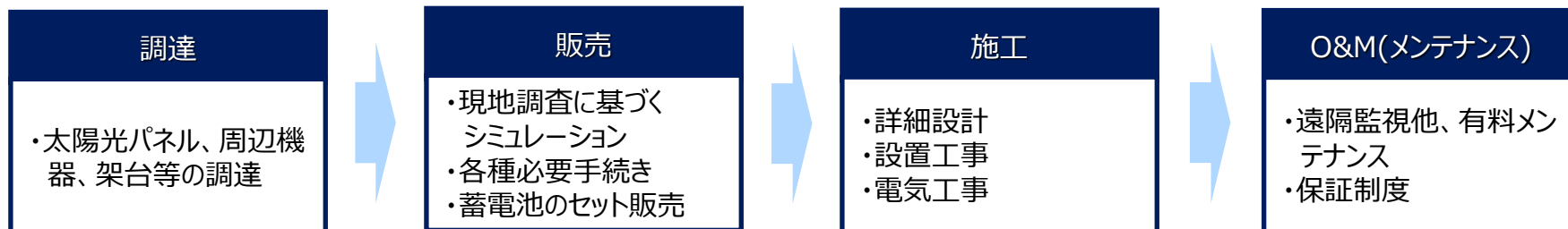


2年目



## SE/PV事業構造

調達・販売・施工・メンテナンスまでトータルサービスを提供



### 住宅向け（10kW未満） 主にSE事業

- 新築住宅：ZEH普及促進
- 既築住宅：省エネ改修支援等による導入加速を背景に、住宅・小規模建築物向け太陽光発電市場は堅調な推移が見込まれる

➡ 住宅太陽光発電市場専門の組織を新たに編成し、積極的な開拓を狙う

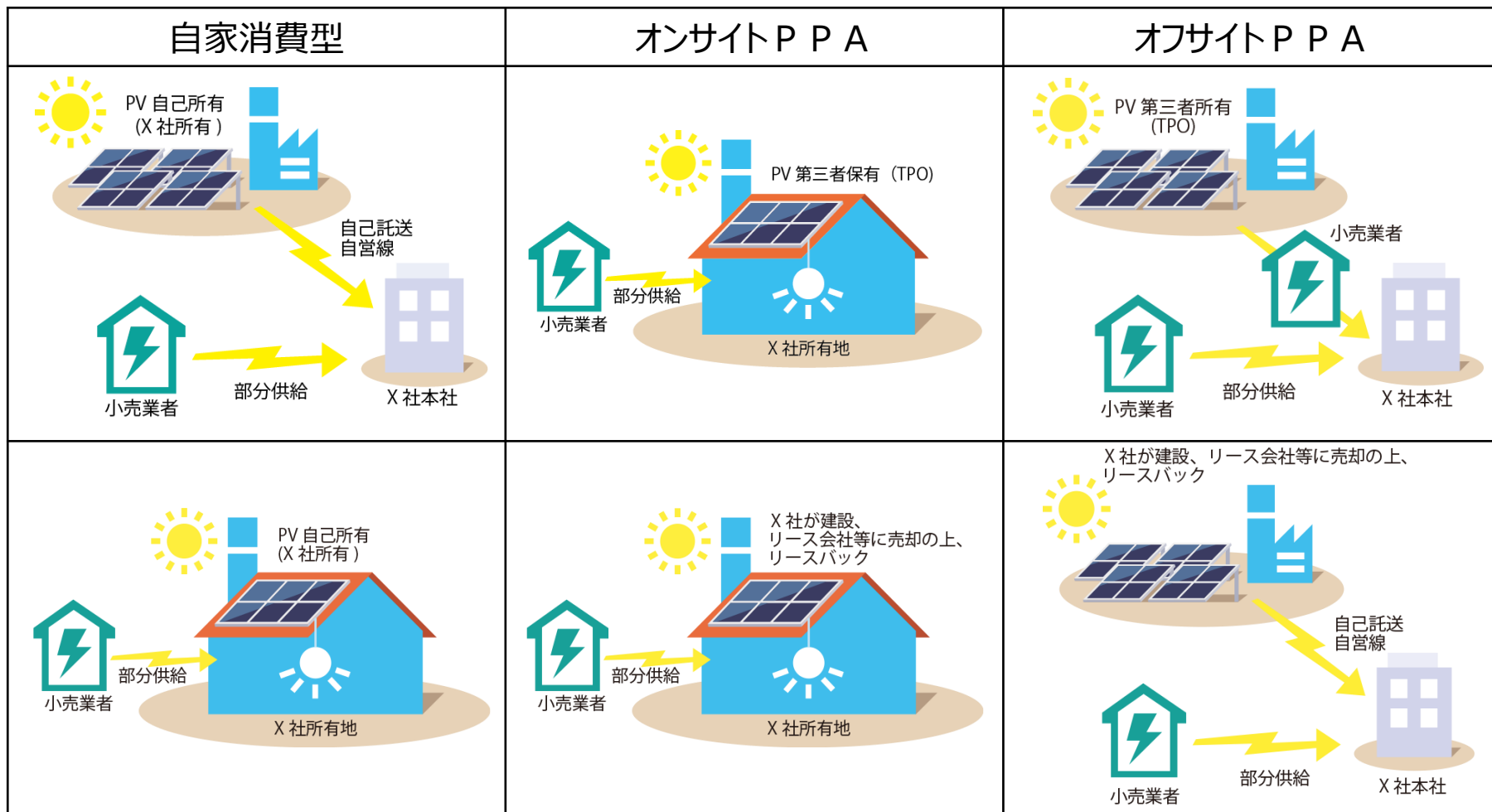
### 法人・自治体向け（10kW以上） 主にPV事業

企業や地方自治体を中心に、脱炭素への取り組みが本格化。太陽光発電設備の導入・保有方法や、発電電力の供給方法等が多様化・高度化することでFIT制度下とは異なる市場が大きく成長することが見込まれる

➡ 各種サービスを展開するための協業体制が整い、FIT制度に依存しない太陽光発電の営業を本格化  
更なる他社協業を進め、提供サービスの拡充を図る



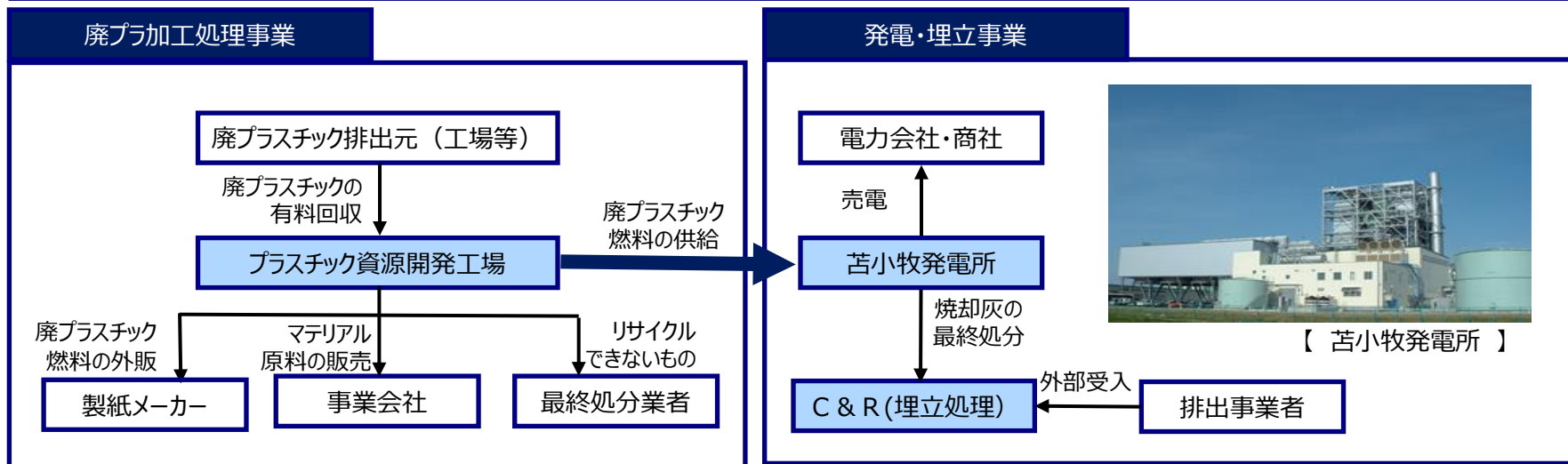
電力料金の上昇と、太陽光発電システムの低コスト化やPPAサービスの浸透等を背景に、経済合理性・脱炭素対応・レジリエンス強化、それぞれのニーズにより太陽光導入が本格化



太陽光発電協会ホームページ「発電事業普及へ向けて」より、当社で加工

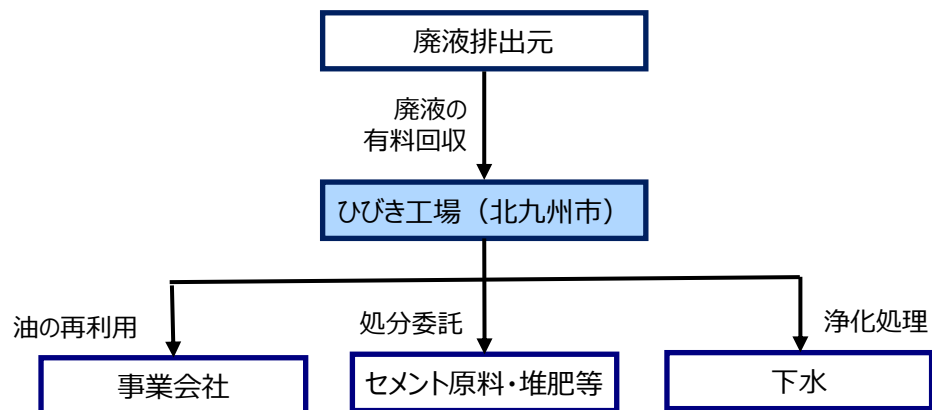
## 環境資源開発事業構造

## 資源循環型発電事業



- 全国15箇所のプラスチック資源開発工場では、メーカーなどの製造工場等から排出される廃プラスチックを、処理手数料とともに回収
- 回収した廃プラスチックは、廃プラスチック燃料に加工処理して、苫小牧発電所に供給
- 苫小牧発電所において、廃プラスチック燃料を利用して発電し、電力会社・商社に売電
- 発電所への供給以外にも、製紙メーカーへの廃プラスチック燃料の外販やマテリアル原料としての販売を実施
- 苫小牧発電所における焼却灰は、C&R(苫小牧市:埋立処理場)で最終処分を実施

## 廃液処理事業



【 ひびき工場 】

※汚泥・廃液を処理する施設としては、国内最大規模

- 食品・飲料工場から排出される廃液を処理手数料とともに回収
- 回収した廃液は、ひびき工場（北九州市）において、微生物処理等によって浄化
- 浄化処理後の処理水は、再利用水として再利用するか、放流基準に達していることを確認のうえ放流
- 処理工程で発生した脱水汚泥は、セメント原料や堆肥として再利用・燃料化

## 【免責事項】

- ・ 本資料には、将来の業績予測に関する記述が含まれています。こうした将来の業績予測に関する記述は、将来業績を保証することを意図するものではなく、一定の前提条件と経営陣の現時点で入手可能な情報による判断に基づくものです。従いまして、以下の要因をはじめとする様々な要因により、将来時点における実際の収益及び業績は、業績予測に関する記述と大きく異なる可能性があります。
- ・ 新型コロナウイルス感染状況及び政府・自治体の対応、日本の景気動向、「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」の動向、廃棄物（特に廃プラスチック類）の取扱いに関わる動向、他の業者との競争環境、技術革新、規制環境、法律環境及びその他の当社の予測を超える様々な要因。
- ・ 本資料は当社が発行する証券への投資を勧誘することを企図した資料ではありません。本資料に含まれる情報に基づいて発生した損失・債務に関して、当社は一切の責任を負わない旨をご了承下さい。

## ＜注意事項＞

- ・ 数値については、単位未満を切り捨てて表示しております。
- ・ 営業利益、経常利益、当期純利益の”△”表記は、それぞれ営業損失、経常損失、当期純損失を表します。
- ・ 比率がマイナスあるいは1000%を超える値の場合「－」で表示しております。
- ・ セグメント間の内部売上高調整額を相殺した金額にて記載しております。

次世代へ快適な環境を  
**SANIX**